

「アップサイクルカー完成会見」につきまして

「脱炭素」の潮流を受け、鉄鋼業界にも大きな変革が訪れています。従来の輸入鉄鉱石や石炭から作る「高炉の鉄」に対し、国内から豊富に発生する「鉄スクラップ」を原料に作られた「電炉の鉄」は、製造時の CO2 発生が約 1/5 に抑えられることから、建設や家電など様々な業種で「電炉の鉄」へのシフトが加速度的に高まっています。

実際、どこまでそのシフトは可能なのか？「鉄使用の主流」とも言える「自動車」に、果たして「電炉の鉄」はどこまで「使える」のか？この問いには長く答が出てきませんでした。そこで当社は、現状の当社製品がどこまで「使える」のかを試すため、ベンチャーの EV 自動車メーカー「FOMM」のご協力を得て、その自動車にどこまで当社鋼材を使って頂けるか、という大きな実験、題して「アップサイクルカー・プロジェクト」を進めて参りました。そして今般、「限りなく多く電炉の鉄を使った」クルマが完成致しました。

11 月 10 日、東京・六本木においてお披露目の会見が行われ、FOMM 社の鶴巻日出夫社長、弊社社長・奈良に加え、元東大総長で三菱総研理事長の小宮山宏先生にもご同席頂きました。先生は自著「新ビジョン 2050」において、カーボンニュートラルを実現できる社会を「プラチナ社会」と名付け、各産業における変革を提唱。CO2 排出量が全産業中最も多い鉄鋼業については、「従来の高炉中心から、電炉中心型への産業転換」を最重要課題と位置付けられてこられました。今回生み出されたクルマは、先生の「プラチナ構想」を具体化したものであり、今回の試みに対しても、学術・思想の面で大変大きな応援を頂いたことから、ご同席頂いたものです。



小宮山宏先生を囲む両社長と、当社鋼板を用いて製造した EV「FOMM ONE」
本件についての問い合わせ先 東京製鐵株式会社 総務部総務課 (03-3501-7721)